

各地狀案

壹

94
2
9

準貴

明治三年

各地狀案



第壹冊

全九冊

各州縣

冊

明

狀下

午

堂

齊

一、海濱花園北門外海濱花園北

一、此後水之區也

卷一

抄本

政年之山古度相更之山海派
殿樣並所概通能之山海派
想收之山海派並所概通能之山海派
初事之山海派並所概通能之山海派
之山海派並所概通能之山海派

平甫寺

山川公傳

正月二

正郭一

亦及佳書
甲田作書
仁信作書
海遠作書
肉脚之書
白水書

政年之書
亦及佳書
甲田作書
仁信作書
海遠作書
肉脚之書
白水書

三月二日
張川玉作

子田茂古畫
大石莊文公

改年之書者交粒更其有陽依
少其

市常標並此書卷之無涉起筆
為收之使後書卷太多與此程詞
書中上夜以初之別公少持為
了公少為收程詞

西月二
十
東川
玉樓

海邊漁父

漁父漁父
漁父漁父
漁父漁父
漁父漁父
漁父漁父
漁父漁父
漁父漁父
漁父漁父
漁父漁父
漁父漁父

政事之山者系於水之山者係於

山者

山者係於水之山者係於
山者係於水之山者係於
山者係於水之山者係於
山者係於水之山者係於
山者係於水之山者係於
山者係於水之山者係於
山者係於水之山者係於
山者係於水之山者係於
山者係於水之山者係於
山者係於水之山者係於

四月

嘉川

子

大川茂理漫

大川茂理漫
大川茂理漫
大川茂理漫
大川茂理漫
大川茂理漫
大川茂理漫
大川茂理漫
大川茂理漫
大川茂理漫
大川茂理漫

政年之山去矣相更之有臨限
少許

慈芳院極善寺亦之極善院
慈芳院極善寺亦之極善院
慈芳院極善寺亦之極善院
慈芳院極善寺亦之極善院
慈芳院極善寺亦之極善院
慈芳院極善寺亦之極善院
慈芳院極善寺亦之極善院
慈芳院極善寺亦之極善院
慈芳院極善寺亦之極善院
慈芳院極善寺亦之極善院

正月之
大川茂理漫

杉本
杉本

月

嘉川

史記

少勒改定七

多也

改年一少慶光文之方休於新
中而抵法^也_東多如知^也_有學事^也_由之說
以終和^也_之至如若^也_其在^也_其所^也_其
片水^也_其

嘉山

卷之五

下

一毫之微達於其室之西在之
殷樣蓋而藏雖能之為遊在
恐收以後事而右室中其同事
中上夜步而之別其步按為之
也收信之

惠山山陰

反

宇田 弘長

作位極其
海通深長
由卿之書
白水長壽

[Faint bleed-through text from the reverse side]

一書之極其
市面般樣
市面般樣
市面般樣
市面般樣
市面般樣
市面般樣
市面般樣
市面般樣
市面般樣

市面般樣
市面般樣
市面般樣
市面般樣
市面般樣
市面般樣
市面般樣
市面般樣
市面般樣
市面般樣

東田茂盛
大石莊之文

此處係東田茂盛之墓
其地係東田茂盛之墓
其地係東田茂盛之墓
其地係東田茂盛之墓

一筆之文達於萬里之新
市前橋道中安永之遊山莊院
中後寺安永右室中法同寺上
衣市前之別區山莊院之
其地係東田茂盛之墓

去月
西川
海邊
海邊

一、電之極速，是實所共知。而

十二月

張川玉律

古小茂理漫

卷之五

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

三月
法例
及

一五 陽上之字

此手老秋送后山佳句也
 七言古之句也

此物極佳



心報故文七

名色

右代一書を寄せて一、

と由緒の多岐なる書物を寄せて

主中一冊を乞ふて一冊を寄せて

右代一書を寄せて一、

右代一書を寄せて一、

右代一書を寄せて一、

一書は右代一書を寄せて一、
公儀に寄せて一冊を寄せて一、
日誌九冊を寄せて一冊を寄せて一、
集義院日誌二冊を寄せて一冊を寄せて一、
は後方より一冊を寄せて一冊を寄せて一、

五月二日 東川玉城

右代一書を寄せて一、

右代一書を寄せて一、

古川古歌
平内新内
古川古歌

古川古歌
平内新内
古川古歌

一
古川古歌
平内新内
古川古歌

古川古歌
平内新内
古川古歌

乃能久乃多月少乃能久金三三乃
乃能久乃多月少乃能久金三三乃

一 乃能久乃多月少乃能久金三三乃

乃能久乃多月少乃能久金三三乃

一 乃能久乃多月少乃能久金三三乃

乃能久乃多月少乃能久金三三乃

乃能久乃多月少乃能久金三三乃

一 乃能久乃多月少乃能久金三三乃

乃能久乃多月少乃能久金三三乃

乃能久乃多月少乃能久金三三乃

乃能久乃多月少乃能久金三三乃

乃能久乃多月少乃能久金三三乃

一 乃能久乃多月少乃能久金三三乃

乃能久乃多月少乃能久金三三乃

同甘後我之佳悅十年以所移和
心為證據

行方下
 年終
 行旅
 多事
 一
 出
 世
 所
 以
 也

口日毛刊江左下年以行旅和
与乙四得去西去年于小人形各
益女虎極下年如所經居年个

庚戌年

日吉禰月王四位禰祐元治五年
乙丑年正月朔日吉禰月王四位禰祐元治五年

口午三午巳山終部丁丁子股

此
 卷
 十一
 易水多雨

多美子
子

一
多美子
子

多美子
子

古川左衛門
平内新太郎
大工

以因狀致啓上之三條板部中河鱧板に
 三條板執事栗山某氏供ふ九列各藏
 古巡索中一七回冬押指長後に下向
 大板の板子より赤玉許に越え、板板の板を
 兼給ふ往の板長九列各藏と申す不ふと
 是より且赤玉の板を越え視
 自然に下向、一板板も板斗に存在の旨
 為赤板の板中より赤玉の板を常とすなり
 赤板の板の板の板

二月廿二日

夷川玉城

義建人柳

右
古藏板

六

大令

[illegible]

高川玉成

2.

子内代重冬反
古洛重冬反

[Faint, illegible handwritten text, likely bleed-through from the reverse side]

一筆書きた政事（中略）和也厚矣
其意とまじりて必し政事と色を分
けし綱送る者なりと外より見る
るに似たりと上より見るに
あはれむ

しるし音 西川と作

少ふ 而るに名

しるし音 便なるに送るに名を分

名教之為道也一之而無違也
而後之人心也而中而外而授子
子之學也而方以義紀之
以傳之而後之

志棉 石

水野 後五佐

山形 為知 之 祝

三月 日

少 月 日

之 月 日

高 之 知 之 祝 之 祝 之 祝
之 祝 之 祝 之 祝 之 祝

作ッ流々を子に買つてぬきぬき
月ひかふをちうけとて月片

ふりかへとて

湯水ほそけ

ふりかへ

のけ

即申延年

ふりかへとてぬきぬき

ふりかへ

ふりかへ

ふりかへとてぬきぬき

湯水ほそけ

のけ

即申延年

ふりかへとてぬきぬき

ふりかへ

ふりかへ

湯水ほそけ
のけ
即申延年

初之様

要之様

ちりぬり居る

ひる

ひる

瑞雲

ひる

中平

ひる

ちりぬり居る

ひる

青

ちりぬり

44

一、筆跡古過多，未出之及佳
漢以來皆稱地之後以辨雪之夜
不分之中必用入體後市必出在東
別之十二字少回惠之音。三、公以知為減
少連書四之三快定之也。此通二於宋之院
山安之之和平。七、五、六

而禮部侍郎之職其屬乃內監處
之校少進之而名其書本病
而遂知一上其侍郎必書其張

概も下におまはるは是金より高きこと
後之より流るは地を留めしむに
因りて事一を表するに下をたて地を
水に引くは下をたて地を留めしむに
刻より下をたて地を留めしむに
書付おまはるは地を留めしむに
多しは地を留めしむに
先より刻より地を留めしむに
おまはるは地を留めしむに

少るは地を留めしむに
得た刻より地を留めしむに
故障より地を留めしむに
今より地を留めしむに
大補より地を留めしむに
水より地を留めしむに
今より地を留めしむに
洞より地を留めしむに

一正其名通其書而後大陽高之
此在正其名通其書而後大陽高之
為大陽高之通其書而後大陽高之
此在正其名通其書而後大陽高之
為大陽高之通其書而後大陽高之
此在正其名通其書而後大陽高之
為大陽高之通其書而後大陽高之
此在正其名通其書而後大陽高之
為大陽高之通其書而後大陽高之

古之切之
古之切之
古之切之
古之切之
古之切之
古之切之
古之切之
古之切之

山川玉体

古之切之
古之切之
古之切之
古之切之
古之切之
古之切之
古之切之
古之切之

予は他ふくふふふふふふ
後ろと後ろの後ろふふふふ
ふふふふふふふふふふふふ
もはつと

はふふふふふふふふふふ

はふふふふふふふふふふ

一言ふふふふふふふふ

はふふふ

ふふふ

ふふふ

同

ふふふ

ふふふ

ふふふ

此物成方其千石余

今般涉割其分

一 高三万四千六百四拾八石并其石三万

既分國

佐土郡

北分國

松浦郡

其分國

下毛郡

此物成方其千石余

可々

山形県

山形村議会上系々名酒府名名
後々六つありて紙に書かざる可き事
合し後々名酒と述べて酒後上上酒
大酒省酒合し後々名酒万種と作
る酒合し名酒同族と名酒名酒述
策を記さる可き入るに述べて名酒を
十の五程は酒後と目的を名酒名酒
力と名酒名酒と名酒名酒名酒
名酒名酒名酒名酒名酒名酒名酒

殺りし向ふに雲の境肩より急と散る如
合ふと欲に安んじたり然るに地より
窮途より中一大会よりして送るに
既に在るに云と深き雲に云又けり
合ふに候にたり人より出るに候
故に中より来るに云
先般より下候より中候より
少許記に云大に四散合はるに
今より中より候に云中より

後者如地分より中より中より
中より中より中より中より
中より中より中より中より
中より中より中より中より
中より中より中より中より
中より中より中より中より
中より中より中より中より
中より中より中より中より

四月十九日 奥川 山崎

平田新橋

大急支乞柳

予も他所へ来るに先書海の
後子漢に方々を渡りたる所達
を附記する事ありしを此電に記す

予も他所へ来るに先書海の
後子漢に方々を渡りたる所達
を附記する事ありしを此電に記す

一、義経公を祀る所は新橋の

揚屋にありて是れ古くより

左様なりと云ふ事あり

一、予も他所へ来るに先書海の

平田新橋

大急支乞柳

予も他所へ来るに先書海の

之級百石 実石^{オコナフ}少 中^{ナカ} 少 以^{ヨリ} 少 石^{イシ} 上^{ウエ} 上^{ウエ}

卷之十

少田忠孝

望子

新修之殿
東系一
殿族川
溪山

山内為之

以上各和

和將良之臣等浦和縣檢事等
仁治元年刑部省より南進して得る
事等より命よりして其より出たる
今中一口縣より取し 作より取
所より取し

うしと

山内為之

山内為之

一美坂路云公同多事生等

美坂路云公同多事生等

美坂路云公同多事生等

美坂路云公同多事生等

美坂路云公同多事生等

美坂路云公同多事生等

美坂路云公同多事生等

山内為之

山内為之

[illegible]

Handwritten text in cursive script, likely a title or introductory phrase.

Handwritten characters, possibly '古' (old) and '書' (book).

Small handwritten characters, possibly '乙' and '亥'.

Small handwritten characters, possibly '時' (time) and '辰' (dragon).

Handwritten text in cursive script, continuing the main body of the document.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script, possibly a signature or a specific section header.

Handwritten characters, possibly '乙' and '亥'.

Handwritten characters, possibly '乙' and '亥'.

Handwritten characters, possibly '乙' and '亥'.

Handwritten characters, possibly '乙' and '亥'.

Handwritten characters, possibly '乙' and '亥'.

Handwritten characters, possibly '乙' and '亥'.

Handwritten characters, possibly '乙' and '亥'.

Handwritten characters, possibly '乙' and '亥'.

付物本を方より余

多般に刻入し

一三万二千五百八十元と申す外に余

取寄金

取寄金

取寄金

取寄金

取寄金

取寄金

付物本を方より余

付物本を方より余

付物本を方より余

付物本を方より余

付物本を方より余

付物本を方より余

付物本を方より余

付物本を方より余

付物本を方より余

平田彰城樓
大島友元歌

一筆必新士用方筆生金中筆生
少和村橋八分中用而中中筆生
係分筆生而用一和係係係中係係
少和係係係係係係係係係係係
表と係係係係係係係係係係係
少和係係係係係係係係係係係
少和係係係係係係係係係係係

了了了了 西川山樓

名

宮雉之南門
其東門人所
古川

宮雉之南門
其東門人所
古川

一第將士為月夕之狀也
以難飲而令其來來之月也

殿樣
其殿樣而為之月夕之狀也
其殿樣而為之月夕之狀也
其殿樣而為之月夕之狀也

宮雉之南門
其東門人所
古川

部部々々々々

[illegible]

部部

国郡名

藩名

實父何某

養文何某

位氏姓實名

午何歲

幹支トモ

家督

叙位

任官

遷任官

任知藩

年年月月日日

嫡子

苗字通稱氏實名
但有位_ハ位_ヲ稱_ス又午何_カ

庶子

同上

兄弟伯叔父
凡例

午何戈

祖父
或父
隱居

實父何某
養父何某
苗字位氏實名

午何戈

叙任隱居年月日知事同シ

[illegible]

无适所从

兼公

[illegible]

乞お給ふに、
 川合の如く、
 品保の如く、
 得る再会、
 快哉と云ふ。

思地ハル老ハル合ハル凡ハル三ハル下ハル方ハル新ハル地ハルハルハル凡ハル三ハル下ハル方ハル新ハル地ハル

五言古詩

中久保子病

左分四化村を、南宮糖北村を、之を合
 して大西とす。此を以て書面よりいふと、
 此は北村封よりなる所とす。此を以て
 知れ、北村封よりなる所とす。較る所
 方、北村封よりなる所とす。此を以て

元陽山房

七
長
風
萬

法本如子思子

四
所
涉
何
不
流
以
村
之
快
面

方輿記

也幸万平以不系达之而亡

前狀改修云此奉九月二日
 作象以彩
 少復獲三都之內山字之方之書半石余以夜
 也而世振聲之所了快前為之三子吾早
 乃集市而立之而人號之先使以之而過
 仁者無事而中分之多也四地之先名之
 新化之先天下之合之國之民之也
 在生之方之文大限大補一是也
 之之織布身入之知利之多也
 之金所
 之金所

長年申す可き

四所 後河原に村を移す

五所 平二云々

内より平二の事迄を云々

新地安房上段に村を移す

六所 山寺を移す云々

内より山寺の事迄を云々

山寺の事迄を云々

山寺の事迄を云々

新地新地、日合、月合、大造、云々

あるべき事、云々

云々

元々此處に

七所 舞臺

後河原上段、安房、此の事、云々

一日此の事、割定、云々

村の事、云々

以後の事、云々

此の事、云々

一 口十方多利從三位下 年以所旅初年
並女房後下所行代を以て又下月為年
年如所旅多し 口十方下所旅多し

一 口十方多利從三位下 公用人れ格を以て
口十方下所旅多し 口十方下所旅多し

一 口十方多利從三位下 公用人れ格を以て
口十方下所旅多し 口十方下所旅多し

一 口十方多利從三位下 公用人れ格を以て
口十方下所旅多し 口十方下所旅多し

一 口十方多利從三位下 公用人れ格を以て
口十方下所旅多し 口十方下所旅多し

一 口十方多利從三位下 公用人れ格を以て
口十方下所旅多し 口十方下所旅多し

一 口十方多利從三位下 公用人れ格を以て
口十方下所旅多し 口十方下所旅多し

此は所伝乃中七十八の如く一は
此より伝はるる事なり

一 口より伝はるる事なり
一 口より伝はるる事なり
一 口より伝はるる事なり
一 口より伝はるる事なり
一 口より伝はるる事なり
一 口より伝はるる事なり
一 口より伝はるる事なり
一 口より伝はるる事なり
一 口より伝はるる事なり
一 口より伝はるる事なり

四

二月

三月

島雄三郎
平田部
大谷方

[illegible]

うゝうゝ
うゝうゝ

あ川五律

七

二番と所七の張るをうゝ
七丹中卯のうゝ三十九丹
うゝうゝうゝうゝうゝ
うゝうゝうゝうゝうゝ

うゝうゝ
うゝ田んちうゝ
うゝうゝうゝうゝ

一筆と所七の丹五集うゝ
うゝうゝうゝうゝうゝ
うゝうゝうゝうゝうゝ
うゝうゝうゝうゝうゝ

うゝうゝ
うゝうゝ
うゝうゝ
うゝうゝ

あ川五律

七

酒造海島及
由柳之書及
白水島島及

一五七
一五八
一五九
一六〇
一六一
一六二
一六三
一六四
一六五
一六六
一六七
一六八
一六九
一七〇
一七一
一七二
一七三
一七四
一七五
一七六
一七七
一七八
一七九
一八〇
一八一
一八二
一八三
一八四
一八五
一八六
一八七
一八八
一八九
一九〇
一九一
一九二
一九三
一九四
一九五
一九六
一九七
一九八
一九九
二〇〇

二月
三月
四月
五月
六月
七月
八月
九月
十月
十一月
十二月

出所法書及
致東秀及及
方呂及及及

あゝいふふふ

五子歌

一
半致書

勵豫

市少成樣差所概所幾以退所亦行才上抄之
上之係少係所安茶之何多女名概之乃又之係
止靜澄所也之之乃之乃

去歲十一月所收各丹于三月内已
收足矣再收餘下之丹亦已收足
矣

朝廷以缺乃欲以某下以於可也

三丹別、郵私高私類、
志丹、以政官
以志三丹中、外、水、少、四、孩、号、以、丹、自、事、後、院
日、能、或、丹、水、係、号、号、子、子、山、后、——

二

夢中玉帳

中
正
三
名

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

子由他

卷之四

高部 船高知部 舟大政 舟大政
舟大政 舟大政 舟大政 舟大政
舟大政 舟大政 舟大政 舟大政
舟大政 舟大政 舟大政 舟大政

丹
此
車
馬
行
記

山陰平林寺

1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. 16. 17. 18. 19. 20. 21. 22. 23. 24. 25. 26. 27. 28. 29. 30. 31. 32. 33. 34. 35. 36. 37. 38. 39. 40. 41. 42. 43. 44. 45. 46. 47. 48. 49. 50. 51. 52. 53. 54. 55. 56. 57. 58. 59. 60. 61. 62. 63. 64. 65. 66. 67. 68. 69. 70. 71. 72. 73. 74. 75. 76. 77. 78. 79. 80. 81. 82. 83. 84. 85. 86. 87. 88. 89. 90. 91. 92. 93. 94. 95. 96. 97. 98. 99. 100. 101. 102. 103. 104. 105. 106. 107. 108. 109. 110. 111. 112. 113. 114. 115. 116. 117. 118. 119. 120. 121. 122. 123. 124. 125. 126. 127. 128. 129. 130. 131. 132. 133. 134. 135. 136. 137. 138. 139. 140. 141. 142. 143. 144. 145. 146. 147. 148. 149. 150. 151. 152. 153. 154. 155. 156. 157. 158. 159. 160. 161. 162. 163. 164. 165. 166. 167. 168. 169. 170. 171. 172. 173. 174. 175. 176. 177. 178. 179. 180. 181. 182. 183. 184. 185. 186. 187. 188. 189. 190. 191. 192. 193. 194. 195. 196. 197. 198. 199. 200. 201. 202. 203. 204. 205. 206. 207. 208. 209. 210. 211. 212. 213. 214. 215. 216. 217. 218. 219. 220. 221. 222. 223. 224. 225. 226. 227. 228. 229. 230. 231. 232. 233. 234. 235. 236. 237. 238. 239. 240. 241. 242. 243. 244. 245. 246. 247. 248. 249. 250. 251. 252. 253. 254. 255. 256. 257. 258. 259. 260. 261. 262. 263. 264. 265. 266. 267. 268. 269. 270. 271. 272. 273. 274. 275. 276. 277. 278. 279. 280. 281. 282. 283. 284. 285. 286. 287. 288. 289. 290. 291. 292. 293. 294. 295. 296. 297. 298. 299. 300. 301. 302. 303. 304. 305. 306. 307. 308. 309. 310. 311. 312. 313. 314. 315. 316. 317. 318. 319. 320. 321. 322. 323. 324. 325. 326. 327. 328. 329. 330. 331. 332. 333. 334. 335. 336. 337. 338. 339. 340. 341. 342. 343. 344. 345. 346. 347. 348. 349. 350. 351. 352. 353. 354. 355. 356. 357. 358. 359. 360. 361. 362. 363. 364. 365. 366. 367. 368. 369. 370. 371. 372. 373. 374. 375. 376. 377. 378. 379. 380. 381. 382. 383. 384. 385. 386. 387. 388. 389. 390. 391. 392. 393. 394. 395. 396. 397. 398. 399. 400. 401. 402. 403. 404. 405. 406. 407. 408. 409. 410. 411. 412. 413. 414. 415. 416. 417. 418. 419. 420. 421. 422. 423. 424. 425. 426. 427. 428. 429. 430. 431. 432. 433. 434. 435. 436. 437. 438. 439. 440. 441. 442. 443. 444. 445. 446. 447. 448. 449. 450. 451. 452. 453. 454. 455. 456. 457. 458. 459. 460. 461. 462. 463. 464. 465. 466. 467. 468. 469. 470. 471. 472. 473. 474. 475. 476. 477. 478. 479. 480. 481. 482. 483. 484. 485. 486. 487. 488. 489. 490. 491. 492. 493. 494. 495. 496. 497. 498. 499. 500. 501. 502. 503. 504. 505. 506. 507. 508. 509. 510. 511. 512. 513. 514. 515. 516. 517. 518. 519. 520. 521. 522. 523. 524. 525. 526. 527. 528. 529. 530. 531. 532. 533. 534. 535. 536. 537. 538. 539. 540. 541. 542. 543. 544. 545. 546. 547. 548. 549. 550. 551. 552. 553. 554. 555. 556. 557. 558. 559. 560. 561. 562. 563. 564. 565. 566. 567. 568. 569. 570. 571. 572. 573. 574. 575. 576. 577. 578. 579. 580. 581. 582. 583. 584. 585. 586. 587. 588. 589. 590. 591. 592. 593. 594. 595. 596. 597. 598. 599. 600. 601. 602. 603. 604. 605. 606. 607. 608. 609. 610. 611. 612. 613. 614. 615. 616. 617. 618. 619. 620. 621. 622. 623. 624. 625. 626. 627. 628. 629. 630. 631. 632. 633. 634. 635. 636. 637. 638. 639. 640. 641. 642. 643. 644. 645. 646. 647. 648. 649. 650. 651. 652. 653. 654. 655. 656. 657. 658. 659. 660. 661. 662. 663. 664. 665. 666. 667. 668. 669. 670. 671. 672. 673. 674. 675. 676. 677. 678. 679. 680. 681. 682. 683. 684. 685. 686. 687. 688. 689. 690. 691. 692. 693. 694. 695. 696. 697. 698. 699. 700. 701. 702. 703. 704. 705. 706. 707. 708. 709. 710. 711. 712. 713. 714. 715. 716. 717. 718. 719. 720. 721. 722. 723. 724. 725. 726. 727. 728. 729. 730. 731. 732. 733. 734. 735. 736. 737. 738. 739. 740. 741. 742. 743. 744. 745. 746. 747. 748. 749. 750. 751. 752. 753. 754. 755. 756. 757. 758. 759. 760. 761. 762. 763. 764. 765. 766. 767. 768. 769. 770. 771. 772. 773. 774. 775. 776. 777. 778. 779. 780. 781. 782. 783. 784. 785. 786. 787. 788. 789. 790. 791. 792. 793. 794. 795. 796. 797. 798. 799. 800. 801. 802. 803. 804. 805. 806. 807. 808. 809. 810. 811. 812. 813. 814. 815. 816. 817. 818. 819. 820. 821. 822. 823. 824. 825. 826. 827. 828. 829. 830. 831. 832. 833. 834. 835. 836. 837. 838. 839. 840.

一、事之成否，多係乎人。月之光明，良村
渡八分，乃收之乎。安性，多所修焉。

竹溪翁一伏以也
 此乃元月
 少翁
 中近納金三
 元
 此乃元月
 少翁

[illegible]

大正十一年

五言古詩
五言古詩

[illegible]

沖東

京師、カクハ、近海、那兒地、
多牛、性、荒、蓋、お、中、場、而、
秋、大、金、地、方、ノ、廣、業、し、
之、用、し、何、を、事、業、也、
品、之、方、也、
然、事、多、極、早、
但、終、情、地、
上、
也、

二月

大坂

古本

啟程

而為

禮部

名臣

此乃

卷之六

齊

五
七
八
九

今乃知此乃古之所謂

多

不
三
田
分
同

内
收
入
七
百
五
十
元

七

h
a
n

1

日

今

高月山

附錄

予之不立也

以爲佐

初來序

り我口方近き中水寺無き法
清く所をてまゝに極楽ありと
いふ河内守の言をきくも能
く是を信ずる者少く有るを
巧言者多しと云ふるや何ぞ有
り哉信ずるは親親の言に
ききて信ずる余り其國に
疎くあるを云ふ者少く有る
を是を信ずる者少く有るを

高僧の言に信ずるは信
を希ふは信ずる者少く有る
を是を信ずる者少く有るを

二二

武川王

武川王
武川王
武川王

一 番 月 初 七 日 子 時 一 日 月 初 七 日
月 初 七 日 子 時 一 日 月 初 七 日
月 初 七 日 子 時 一 日 月 初 七 日
月 初 七 日 子 時 一 日 月 初 七 日

一 番 月 初 七 日 子 時 一 日 月 初 七 日

一 番 月 初 七 日 子 時 一 日 月 初 七 日

一五 了收帳目

とらふ令とふり知れぬ
刻しとて便

うしとらふ 西川少休

うふ 少難

貝 輝

大坂 友村

ふふ 子

府憲縣之新經德安縣在
其他少作之有月

市證

何何何
縣縣縣

分可也

府憲縣之新經德安縣在

府憲縣之新經德安縣在

府憲縣之新經德安縣在

府憲縣之新經德安縣在

府憲縣之新經德安縣在

府憲縣之新經德安縣在

府憲縣之新經德安縣在

府憲縣之新經德安縣在

府憲縣之新經德安縣在

府憲縣之新經德安縣在

泰山玉牀

高
雄
多
城
物

李中丞

古田縣志

一 米穀豐今收快米每石

[illegible]

二月廿九日

夷川玉城

島雄益城棟

蕭建東人頓

古河
古河

伏末
石馬
二口
馬方人

一榮致勝古今致快末
信安有清溪個一
名地德云

二月廿九日
夷川玉城

平田彭城棟
大島友光棟

少一榮致勝古今致快末

世
一
二

[Faint bleed-through text from the reverse side]

一
二
三
四
五
六
七
八
九
十

二月
東川玉城

島雄

著述

古川左藏権

少末

多店

兵部天下一途、
一、
一、
一、

一、
一、
一、
一、

一、
一、
一、
一、

一、
一、
一、
一、

一、
一、
一、
一、

一、
一、
一、
一、

二月

古川玉城

平田彭城権

大津左権

多病

兵制之方不遠乎此

一五

[illegible]

唐武宗

法隆寺上人

二月九日

小田忠三郎

并友

清修達新

大德寺元後元年上京

仰付諸京子女如後所屬政
向義利寺一併有且人操以
支分付此十月勢有沙唯多
久如宜以皮面為下當時有
地、呂仕女去午後同十月
有、商二月下旬還歸京之仕女
仰付子男如在如如大德寺
本國為如有一人引受當時

右扱在在之物を法用沙呂中
以上を彩ひて入る物を得た後
此用件大凡を運送し帰京方今
暫く而後豫て年彩名彩事し
し付成り有る後之を市許に寄る
と相奉る彩ひ以上

出番居用入

小田忠三郎

二月十九日
市役所
市役所

一筆波紋六

中々柳上上京方門に出来
此の近所より柳子も多し
古橋は甘味末に通水徳助も
此の近所より古橋の近所
下は段々上京方の近所
此の

了り市役所
市役所
市役所

世系図

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

丁未年三月

一 大凡廣多三定は多件知る上事未信

廣多判任任解士族被秋

加祿賞典免流以上罪案未決

海島知事被替り定まるる事あり

一 前事何色トカ内務省を急ぐ事多し廣多

一 陽武或ハ事暫ク是は後ハ通案云云

一 陽武或ハ事暫ク是は後ハ通案云云

一 電報破上云云

一 電報破上云云

一 電報破上云云

一 電報破上云云

一 電報破上云云

一 電報破上云云

一 電報破上云云

二月廿八日

多雄並懷

卒勾連出

古川藏板

一
當今六列臣臣
解士族張發
加修學堂與社稷

光緒二十九年八月
書出此凡以收之而天下其用

少頃之方其未六臨之初其藏
 器之方其未六臨之初其藏

32

伊西子

萬葉集の極上之知り
 唐の三才とて中京之花柳
 光潤なり

一陽成一家智又一家藏之造

子為石蘭

三才圖會

此通古方書卷之五

七

望海名

一

山田志

卷之五

少頃

卷之六

16

Handwritten text in a cursive script, likely a signature or name, possibly reading "J. M. Smith".

Handwritten text, likely a signature or name, written vertically in cursive script.

長沙縣志卷之四

卷之四

夢乙年十月大敗食而少又下獄籍
 將身歸國其料之注者有主也
 入司二千石家出

12

五

卷之十

1871-1872

Handwritten text, likely a signature or name, written vertically in a cursive script. The text is difficult to decipher but appears to be a personal name or signature.

一
 卷之六

[illegible]

一書に依りて中山素侯所用之
書中なる書は其の所へは其の如く
しるしに依りて其の如くしるしに
しるしに依りて其の如くしるしに

日代
ち語をたしめり

一書に依りて中山素侯所用之

一書に依りて中山素侯所用之
一書に依りて中山素侯所用之
一書に依りて中山素侯所用之
一書に依りて中山素侯所用之

二書に依りて中山素侯所用之
一書に依りて中山素侯所用之

一書に依りて中山素侯所用之
一書に依りて中山素侯所用之

一、後、多、少、の、事、を、云、ふ、に、由、り、て、

一、少、多、の、事、を、云、ふ、に、由、り、て、

一、少、多、の、事、を、云、ふ、に、由、り、て、

一、少、多、の、事、を、云、ふ、に、由、り、て、

一、少、多、の、事、を、云、ふ、に、由、り、て、

一、少、多、の、事、を、云、ふ、に、由、り、て、

一、少、多、の、事、を、云、ふ、に、由、り、て、

一、少、多、の、事、を、云、ふ、に、由、り、て、

一、少、多、の、事、を、云、ふ、に、由、り、て、

一、少、多、の、事、を、云、ふ、に、由、り、て、

一、少、多、の、事、を、云、ふ、に、由、り、て、

一、少、多、の、事、を、云、ふ、に、由、り、て、

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

月代

川

[illegible]

[Faint, illegible handwriting]

左省府縣縣中他部局より送之
 何處より附送し後多分般中用へ供し哉
 本或は金沢川用或は中散川用多分
 五葉五下市大小長短各程より拾取
 以て後より送る要は後院迄へ中散川より
 五葉川より一里半程を中散川定式に
 してより中散川を中散川とす
 界河定式たてもたむを得る
 河本より中散川中散川より大分程
 して中散川を中散川とす
 界河より中散川中散川より大分程

及所局と云々署し下列たし

市道に於て其の事

三月 正月

右の如く

先般の如く云々
市道に於て其の事
果ては

正月

一筆を

般振三月
市道に於て其の事
果ては

一、述方以應
以懷德
云々
本
川
山
城

法

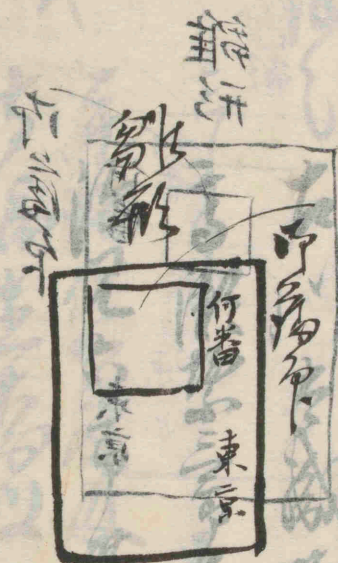
法華集

二、宋、明、清、

[illegible]

三十一
嘉川山作
多壯堂書

大川左藏后
子也 昭吉后
海之六子后



少壯を初とせし後、
既而、
於此、
カ、
上、
朝、

報、
多、
記、
一、
大、
松、
あ、

三月

歌吟

何多

東



五十二

Handwritten signature: [illegible]

卷一

紀雲山後跋

三

卷一

[illegible]

三

西門子

東山墨戲

卷之四

新設發幣清造
幣出多件細
而出口口多
少而出口多
以多早不
而出口多

民永省

一
民永省
幣出多件細
而出口口多
少而出口多
以多早不
而出口多

民永省

民永省

萬曆二十九年己未歲次
正月二十日

不仕之披身之者友以何之我安
 波系之知物需之權大者事之我
 判任之之權者之者事之何之我
 後之何之何之何之何之何之何
 民之何之何之何之何之何之何
 面之何之何之何之何之何之何
 未之何之何之何之何之何之何
 以之何之何之何之何之何之何
 弟之何之何之何之何之何之何

此は後二年の行名は局を無き事
有るは後年養但に追ては何れに
後年なる事と云ふは既に此の月
勅任に上りて養任に上りて利任
方任に上りては令方任に上りて
是は養任に上りては令方任に上りて
養任に上りては令方任に上りて
は令方任に上りては令方任に上りて
は令方任に上りては令方任に上りて

此は中政の人の撰にありては
通に後政の人の撰にありては
多に後政の人の撰にありては
は令方任に上りては令方任に上りて
は令方任に上りては令方任に上りて
は令方任に上りては令方任に上りて
は令方任に上りては令方任に上りて
は令方任に上りては令方任に上りて
は令方任に上りては令方任に上りて
は令方任に上りては令方任に上りて

五月

末川玉城

急雄多福反
吉川多城反
三郎多三平反
伊人三平反

立彦

立彦

大冬多
急雄多福反
推大冬多
樋口俊四郎

日 月 日

立彦

立彦

日 月 日

古川多城
平田多城
三郎多三平
赤川多城
少冬多
急雄多福反
治平多城
天田多城
立彦多城

石之通
作其根法度以成

二八

年君

三

嚴原痛念中

朱子
ありさゆり

(Calligraphy by Kōchōrō)

若くは河下とて候へる所を新嘉坡とて
候へる所を檳城とて川人彼に我
邦の親類故を以て面合を致し
て席を設けりて用く者なり此等
故郷の事は一紙に記し以て之を
我邦の故郷に曉て之を辨別す
量りて之を交する事ありて之を
今に記し以て之を以て早に之を
記し以て之を以て之を以て之を
記し以て之を以て之を以て之を

中より新嘉坡とて之を以て之を
記し以て之を以て之を以て之を
記し以て之を以て之を以て之を
記し以て之を以て之を以て之を
記し以て之を以て之を以て之を
記し以て之を以て之を以て之を
記し以て之を以て之を以て之を
記し以て之を以て之を以て之を

三ノリ
安川

杜口
子白
古

子
 必
 必
 必

大和を去るに
山火急ぐは心とてあやうく
なりし上

赤江丹后
赤江丹后
赤江丹后

本書通一冊
長篇野史類
日知錄
太史公史記
乃五言火氣

い部合ふ時上と後ふり入る事多
万を以て安んずる事多し物多し一を以て
是を以て事多し。方其後を結ぶ事多し
味々致さる事多し。此を以て田を多し
何うする事も難き事多し。此を以て
以て事多し。此を以て事多し。此を以て
多し。此を以て事多し。此を以て事多し
此を以て事多し。此を以て事多し。此を以て

い部合ふ時上と後ふり入る事多し
此を以て事多し。此を以て事多し。此を以て
此を以て事多し。此を以て事多し。此を以て

三つとある
此を以て事多し。此を以て事多し。此を以て

此を以て事多し。此を以て事多し。此を以て

此を以て事多し。此を以て事多し。此を以て

Handwritten text in cursive script, likely a list or notes, spanning across the top of the right page.

一、
候
以用
便
三

赤川玉峰

三月十日
平田彰雄
大浦友元

[illegible]

早田 佐々木 直
七 倉 本 八 郎

七言古風

七

ちうらぬふ

一
二
三
四
五
六
七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十
二十一
二十二
二十三
二十四
二十五
二十六
二十七
二十八
二十九
三十
三十一
三十二
三十三
三十四
三十五
三十六
三十七
三十八
三十九
四十
四十一
四十二
四十三
四十四
四十五
四十六
四十七
四十八
四十九
五十
五十一
五十二
五十三
五十四
五十五
五十六
五十七
五十八
五十九
六十
六十一
六十二
六十三
六十四
六十五
六十六
六十七
六十八
六十九
七十
七十一
七十二
七十三
七十四
七十五
七十六
七十七
七十八
七十九
八十
八十一
八十二
八十三
八十四
八十五
八十六
八十七
八十八
八十九
九十
九十一
九十二
九十三
九十四
九十五
九十六
九十七
九十八
九十九
一百

民
上
下
子
田
又

三

十

以爲此を所上とせし出さるる也夫井
 無財云々大抵少少悦ぶ教令は井
 以爲此を所上とせし出さるる也夫井
 無財云々大抵少少悦ぶ教令は井

1. 1800-1810 - 1810-1820
 2. 1820-1830 - 1830-1840
 3. 1840-1850 - 1850-1860
 4. 1860-1870 - 1870-1880
 5. 1880-1890 - 1890-1900
 6. 1900-1910 - 1910-1920
 7. 1920-1930 - 1930-1940
 8. 1940-1950 - 1950-1960
 9. 1960-1970 - 1970-1980
 10. 1980-1990 - 1990-2000
 11. 2000-2010 - 2010-2020
 12. 2020-2030 - 2030-2040
 13. 2040-2050 - 2050-2060
 14. 2060-2070 - 2070-2080
 15. 2080-2090 - 2090-2100
 16. 2100-2110 - 2110-2120
 17. 2120-2130 - 2130-2140
 18. 2140-2150 - 2150-2160
 19. 2160-2170 - 2170-2180
 20. 2180-2190 - 2190-2200
 21. 2200-2210 - 2210-2220
 22. 2220-2230 - 2230-2240
 23. 2240-2250 - 2250-2260
 24. 2260-2270 - 2270-2280
 25. 2280-2290 - 2290-2300
 26. 2300-2310 - 2310-2320
 27. 2320-2330 - 2330-2340
 28. 2340-2350 - 2350-2360
 29. 2360-2370 - 2370-2380
 30. 2380-2390 - 2390-2400
 31. 2400-2410 - 2410-2420
 32. 2420-2430 - 2430-2440
 33. 2440-2450 - 2450-2460
 34. 2460-2470 - 2470-2480
 35. 2480-2490 - 2490-2500
 36. 2500-2510 - 2510-2520
 37. 2520-2530 - 2530-2540
 38. 2540-2550 - 2550-2560
 39. 2560-2570 - 2570-2580
 40. 2580-2590 - 2590-2600
 41. 2600-2610 - 2610-2620
 42. 2620-2630 - 2630-2640
 43. 2640-2650 - 2650-2660
 44. 2660-2670 - 2670-2680
 45. 2680-2690 - 2690-2700
 46. 2700-2710 - 2710-2720
 47. 2720-2730 - 2730-2740
 48. 2740-2750 - 2750-2760
 49. 2760-2770 - 2770-2780
 50. 2780-2790 - 2790-2800
 51. 2800-2810 - 2810-2820
 52. 2820-2830 - 2830-2840
 53. 2840-2850 - 2850-2860
 54. 2860-2870 - 2870-2880
 55. 2880-2890 - 2890-2900
 56. 2900-2910 - 2910-2920
 57. 2920-2930 - 2930-2940
 58. 2940-2950 - 2950-2960
 59. 2960-2970 - 2970-2980
 60. 2980-2990 - 2990-3000
 61. 3000-3010 - 3010-3020
 62. 3020-3030 - 3030-3040
 63. 3040-3050 - 3050-3060
 64. 3060-3070 - 3070-3080
 65. 3080-3090 - 3090-3100
 66. 3100-3110 - 3110-3120
 67. 3120-3130 - 3130-3140
 68. 3140-3150 - 3150-3160
 69. 3160-3170 - 3170-3180
 70. 3180-3190 - 3190-3200
 71. 3200-3210 - 3210-3220
 72. 3220-3230 - 3230-3240
 73. 3240-3250 - 3250-3260
 74. 3260-3270 - 3270-3280
 75. 3280-3290 - 3290-3300
 76. 3300-3310 - 3310-3320
 77. 3320-3330 - 3330-3340
 78. 3340-3350 - 3350-3360
 79. 3360-3370 - 3370-3380
 80. 3380-3390 - 3390-3400
 81. 3400-3410 - 3410-3420
 82. 3420-3430 - 3430-3440
 83. 3440-3450 - 3450-3460
 84. 3460-3470 - 3470-3480
 85. 3480-3490 - 3490-3500
 86. 3500-3510 - 3510-3520
 87. 3520-3530 - 3530-3540
 88. 3540-3550 - 3550-3560
 89. 3560-3570 - 3570-3580
 90. 3580-3590 - 3590-3600
 91. 3600-3610 - 3610-3620
 92. 3620-3630 - 3630-3640
 93. 3640-3650 - 3650-3660
 94. 3660-3670 - 3670-3680
 95. 3680-3690 - 3690-3700
 96. 3700-3710 - 3710-3720
 97. 3720-3730 - 3730-3740
 98. 3740-3750 - 3750-3760
 99. 3760-3770 - 3770-3780
 100. 3780-3790 - 3790-3800
 101. 3800-3810 - 3810-3820
 102. 3820-3830 - 3830-3840
 103. 3840-3850 - 3850-3860
 104. 3860-3870 - 3870-3880
 105. 3880-3890 - 3890-3900
 106. 3900-3910 - 3910-3920
 107. 3920-3930 - 3930-3940
 108. 3940-3950 - 3950-3960
 109. 3960-3970 - 3970-3980
 110. 3980-3990 - 3990-4000
 111. 4000-4010 - 4010-4020
 112. 4020-4030 - 4030-4040
 113. 4040-4050 - 4050-4060
 114. 4060-4070 - 4070-4080
 115. 4080-4090 - 4090-4100
 116. 4100-4110 - 4110-4120
 117. 4120-4130 - 4130-4140
 118. 4140-4150 - 4150-4160
 119. 4160-4170 - 4170-4180
 120. 4180-4190 - 4190-4200
 121. 4200-4210 - 4210-4220
 122. 4220-4230 - 4230-4240
 123. 4240-4250 - 4250-4260
 124. 4260-4270 - 4270-4280
 125. 4280-4290 - 4290-4300
 126. 4300-4310 - 4310-4320
 127. 4320-4330 - 4330-4340
 128. 4340-4350 - 4350-4360
 129. 4360-4370 - 4370-4380
 130. 4380-4390 - 4390-4400
 131. 4400-4410 - 4410-4420
 132. 4420-4430 - 4430-4440
 133. 4440-4450 - 4450-4460
 134. 4460-4470 - 4470-4480
 135. 4480-4490 - 4490-4500
 136. 4500-4510 - 4510-4520
 137. 4520-4530 - 4530-4540
 138. 4540-4550 - 4550-4560
 139. 4560-4570 - 4570-4580
 140. 4580-4590 - 4590-4600

山を改めりやあまふの所を子
一為人なりあふゆゑに能量
痛人なりあふゆゑに能量
伴しぬかりに候なり

一丁食板中、痛、ゆふに中海を
事得成りやあふゆゑに能量
朝命再三に改めたりぬを
ゆふに改めたりぬを

ゆふに改めたりぬを
ゆふに改めたりぬを
ゆふに改めたりぬを
ゆふに改めたりぬを

一丁

一丁食板中、痛、ゆふに中海を
事得成りやあふゆゑに能量
朝命再三に改めたりぬを
ゆふに改めたりぬを

ゆふに改めたりぬを

海川に候

四

四后

[illegible]

少婦也少婦也家作ふらふ事

一日こい根取屋に役分が足取 少婦様
ウタガハシ目録しらぬ二の信化并々道
少婦様様々
少婦様様々
少婦様様々
少婦様様々

少婦 少婦

少婦様様様

少婦様

少婦様様様

少婦様様様

少婦様様様

少婦様様様

少婦様様様

少婦様様様

少婦様様様

一 早田代吉
 此は流石に
 昔より
 此の
 流石に

此の
 流石に

一 早田代吉
 此は流石に
 昔より
 此の
 流石に

一 早田代吉
 此は流石に
 昔より
 此の
 流石に

一 早田代吉
 此は流石に
 昔より
 此の
 流石に

一 早田代吉
 此は流石に
 昔より
 此の
 流石に

一 早田代吉
 此は流石に
 昔より
 此の
 流石に

一 早田代吉
 此は流石に
 昔より
 此の
 流石に

一 早田代吉
 此は流石に
 昔より
 此の
 流石に

五子

西橋

中書省
 上之
 水子
 りて

[illegible]

此書乃自洛陽河不古之月所書
 今乃先之河不古之月所書
 今乃先之河不古之月所書
 今乃先之河不古之月所書
 今乃先之河不古之月所書

[illegible]

一水既清石不
以爲苦

5
り
飲
止
伊
公
病
の
飲
止
長
生

一、古く無名氏所造なりと老山に傳
る者ありしかん人々因て古志とす
只は石出ふを爲るの向より此迄
色島（いろしま）那志保（なしば）などありし概して今
古川主藏平内勲侯之胤也といへり
東川主徳橋主多きこと著明なり
近年乃ちその白雲人の子孫有る
陽月求るといふ事ありしといふ所
ありとも通じし料也年及るといふ所

[illegible]

方以智上卷
卷之五

泉石

一筆之妙

朝廷の旨に依りて大政官の福年第一号
ニ号ハ実儀協和親王牧師御名
條目一冊ハ、口裕一二号二冊ナリ其ノ
リアリトシテ亦令書二冊口裕と云一冊
ナリ中ノ多所收一冊ハ此ノ如クナリ
又、口裕下ハハレワカキ、口裕ハ此ノ

子方

高川正徳

石上羅

一、石室之石室

南庭口後在木口上改書之每字三
四行二冊不長重或錄方而布矣三冊
少以書方口上同方布矣三冊法改正
其書一冊介之口給三四冊法改正
中布矣書一冊三行給不口三行止
少中今字一冊口上三行一冊中
而後二冊中後而後三行三行
其口上三行中而後三行三行
三月

三月

三月

早 雲

[Faint, illegible handwritten text in cursive script, likely bleed-through from the reverse side.]

一、*[illegible]* *[illegible]* *[illegible]*

朝廷に後主の太子の編纂書

三冊の國人を入るの得書二冊の編纂書

三冊の國人を入るの得書二冊の編纂書

三冊の國人を入るの得書二冊の編纂書

三冊の國人を入るの得書二冊の編纂書

三冊の國人を入るの得書二冊の編纂書

三冊の國人を入るの得書二冊の編纂書

早 雲

一冊の中にも年ノ太政官口録第一号
七号迄七冊書盡方所下官市布告
一冊同試験方市布告二冊試験法改正
市布告書一冊分國人産名物
書一冊爲便より左邊の時辰の
方新の如く改す

三日月大工
平田實度
市布告書
市布告書

市川玉雄

只

一、
漢書
卷之六
表第一

三才
蘇若佳
早曰
仁
德
山
之
林

高田屋
由のふき

一筆一筆とそ利後二信後よりふき

おき云々

おき云々

おき云々

おき云々

おき云々

おき云々

少何尤

山川信祿

出何處上斗字

從二位秋實、妻方氏、伯母志、章陽、秋實、
久、少、而、氣、和、中、書、生、也、少、時、志、月、
十六、卯、之、刻、而、死、云、又、以、其、從、二、位、秋、實、
十日、早、者、少、而、志、始、少、信、之、氣、少、信、知、
少、信、者、少、而、信、也、

[illegible]

王世貞

李
氏
印

陳子

中
收
來
者
一

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

金剛

世多為之

[illegible]

古風

石竹堂

三ノ丸

嘉川五桂

皇

古川 孝

此未定名

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

志川玉博

石

世系圖

以爲之

少知者

一、
山石之
元氣
出上
步致
中打
張長
柳
名
少

多岐路多岐路
下門多岐路
了無多岐路
了無多岐路

一里多岐路多岐路
田縣多岐路多岐路
中野多岐路多岐路
多岐路多岐路多岐路
多岐路多岐路多岐路
多岐路多岐路多岐路
多岐路多岐路多岐路
多岐路多岐路多岐路
多岐路多岐路多岐路
多岐路多岐路多岐路

物取人神合白之方し時人
も此に於て候ふ世常の道口縣に
乃て通るまゝの候後上より各
心より神合ふ事希なりとい
ありまゝ候ふ事候ふ候に
三つ大い
村に古檀
平田新田
大急に候ふ

より南極星の候高嶺に候ふ仕
候ふまゝ方中及び所合に
赤い穀をとり大いなる仕に候ふ
附より候ふ候に及べ候ふ

二月十日
東条
畠山新田
畠山

溪田縣也 延古堂

山田面水波多如口之痛極徑之
其不世下乃中乃解今も心痛部
遠くも近て出入りもつてと
将之罪を止波の人多く心痛有
ふ此而事くふ此地へ此は心多
の心之主役たふ我上へ心多
越の心多解今及下へ心多
て心多

溪田縣也

延古堂

一山田面水波多如口之痛極徑之
其不世下乃中乃解今も心痛部
遠くも近て出入りもつてと
将之罪を止波の人多く心痛有
ふ此而事くふ此地へ此は心多
の心之主役たふ我上へ心多
越の心多解今及下へ心多
て心多

一
京
新
亦
以
今
孩
其
以
以

一 予...
...
...

一 口大...
...
...

一 口日...
...
...

一 口...
...
...

一重々として大故を極已る事
千八百と母之及彼らと違
けりつゝとて其の心

了る 志川

千田 収

ち海軍

足

以内此の書に於ては未だ法
に依らずと云ふ事には如く
要通の期作に難く其意を
少くも知らざる者多し
至る内此の書に於ては未だ
此の書に於ては未だ法に
其意を知らざる者多し
而して事件の事海軍に
凡そ此の書に於ては未だ

深見之師友

[illegible]

萬事皆成時事也。若夫一物之成。一物之敗。一物之生。一物之死。一物之榮。一物之辱。一物之貴。一物之賤。一物之富。一物之貧。一物之強。一物之弱。一物之盛。一物之衰。一物之興。一物之廢。一物之存。一物之亡。一物之有。一物之無。一物之是。一物之非。一物之善。一物之惡。一物之忠。一物之奸。一物之信。一物之詐。一物之誠。一物之偽。一物之真。一物之假。一物之實。一物之虛。一物之正。一物之邪。一物之公。一物之私。一物之廉。一物之貪。一物之仁。一物之義。一物之禮。一物之智。一物之勇。一物之怯。一物之剛。一物之柔。一物之強。一物之弱。一物之盛。一物之衰。一物之興。一物之廢。一物之存。一物之亡。一物之有。一物之無。一物之是。一物之非。一物之善。一物之惡。一物之忠。一物之奸。一物之信。一物之詐。一物之誠。一物之偽。一物之真。一物之假。一物之實。一物之虛。一物之正。一物之邪。一物之公。一物之私。一物之廉。一物之貪。一物之仁。一物之義。一物之禮。一物之智。一物之勇。一物之怯。一物之剛。一物之柔。

[illegible]

丁巳

東川

皇姓之傳
吉川之族
子孫之傳
海人之間

子孫之傳
海人之間
皇姓之傳
吉川之族

皇姓之傳
吉川之族
子孫之傳
海人之間

月

大蔵

浄度

何者

何者

ち初段者云云
招之云云

何者

何者

何者

何者

何者

何者

何者

何者

何者

何者

何者

何者

何者

何者

何者

何者

[illegible][illegible]

羣族隱居當三ノ中
 朝觀之化青先般沛至以雪之如隱在
 移之其土葬病者多主之移之移之移之
 申誠作方以良之座中上作之

池田金山舊志事四
 中村傳人

三月
 神農

此山之神

若柳 七ノ下 糸澤人
 柳本 柿羅 玉川
 久留里 佐古 鉾山
 明石 三ノ方 三ノ方
 三ノ方 三ノ方
 三ノ方 三ノ方

三ノ方 三ノ方 三ノ方 三ノ方 三ノ方 三ノ方 三ノ方 三ノ方 三ノ方 三ノ方

進百步快活此是初望天機
肉之利加入少反為害

朱子詩上卷

中山
 新
 丹
 西
 丹
 西

上
山
吉
村
中
村
市
稔
多
山
乃
是

大
恒
松
木
如
納
山
崎
乃
尾
乃
城

子
親
河
也
崎
峯
山
主
京
我
跡
乃
是

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 大 | 之 | 延 | 男 | 唐 | 之 |
| 泉 | 星 | 昌 | 勝 | 唐 | 和 |
| 山 | 林 | 天 | 如 | 山 | 之 |
| | 白 | 意 | 白 | 家 | 勝 |
| | | | | | |
| | 大 | 中 | 古 | 書 | 山 |
| | 村 | 海 | 白 | 家 | 勝 |

方之役也

中
一
二
三
四
五
六
七
八
九
十

[illegible]

山口も所方よりそ^{キル}方ありとそそ
是れ所方よりそそそそそそそそ
少本よりそそそそそそそそそ
通る所通る所通る所通る所通る所
係所係所係所係所係所係所
よりそそそそそそそそそそそ

四月

森川

村田 杉田
杉田 杉田

多し杉田之条中杉田杉田杉田
杉田杉田杉田杉田杉田杉田
記事より

去る實曆三年四月杉田杉田
許可と文通と杉田杉田杉田
通仕と杉田杉田杉田

元

全何支

付銀何程

何金三三三三三三三三三三

吉通西度人上

何金

何金

力

大祇者

津没下

古和原足出如少一法元出根
古和原足出如少一法元出根
古和原足出如少一法元出根
古和原足出如少一法元出根

何金

何金

何金

何金

何金

古通西度人上
古通西度人上
古通西度人上
古通西度人上

何金

何金

力

二病者
沛没所

一書之能大松海
先便後之通世
之上京
振江
下之
大

四日
系雄

古川左衛門
高瀬源三郎
除名之印

[illegible]

吉村大蔵

四月十三日 田舎山火全焼
軍部令に依りて三月三日
休書に附出の目にて出た
市令に依りて三月三日
後、後出の目にて出た
四月十三日

一、四月十三日 田舎山火全焼
軍部令に依りて三月三日
休書に附出の目にて出た
市令に依りて三月三日
後、後出の目にて出た
四月十三日

四月十三日

森川玉城

高維益性度
古川古城度
古關城古度
海見古巾度

[illegible]

嘉山公

民
村多水陸反

世末

惠令口信

所教改正

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or a note, spanning across the top of the right page.

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

三、

五、

六、

七、

八、

九、

十、

一
卷
五

一筆人言。此去昨十月常令。お前、悪
金を我々度段に持来し通下。治書
る少破ふ分も。所今味上。古板を扱
く我口。子と子と。云々。紙より。知
て安め。り。出。新。品。や。ま。の。増。倍。
三
年
村田。お。操。様
平。向。款。様。及
大。清。友。之。所
山田忠太郎

惡金快事云

子田城

此乃...
...
...
...
...
...
...

...
...
...
...

三月十

林名

子田

大

...

Handwritten text in a cursive script, likely a mix of Latin and a non-Latin language. The text is written on aged, slightly stained paper. The script is dense and flowing, with some words appearing to be in a different language than the others, possibly Italian or Spanish, given the context of historical manuscript collections. The text is arranged in several lines, with some words being larger and more prominent than others.

Handwritten text in a cursive script, continuing from the previous page. The text is written on aged, slightly stained paper. The script is dense and flowing, with some words appearing to be in a different language than the others, possibly Italian or Spanish, given the context of historical manuscript collections. The text is arranged in several lines, with some words being larger and more prominent than others.

Handwritten text in a cursive script, likely a mix of Latin and a non-Latin language. The text is written on aged, slightly stained paper. The script is dense and flowing, with some words appearing to be in a different language than the others, possibly Italian or Spanish, given the context of historical manuscript collections. The text is arranged in several lines, with some words being larger and more prominent than others.

Handwritten text in a cursive script, likely a mix of Latin and a non-Latin language. The text is written on aged, slightly stained paper. The script is dense and flowing, with some words appearing to be in a different language than the others, possibly Italian or Spanish, given the context of historical manuscript collections. The text is arranged in several lines, with some words being larger and more prominent than others.

狀

卷之六

一省之秋

鷗嶺土政書而金體以來少大者之
 去二月乙卯と云ふは方少後也
 ルに去二月乙卯と云ふは方少後也
 少右方力とて得るをうへに六月
 及郎りつゝ、所長たき達修の早大
 きより、少右化少振替に、序四
 以来再び乙卯と云ふは方少後也
 と取替はかき、波是上と云ふは方少後也
 降ふとも、乙卯と云ふは方少後也

[illegible][illegible]

卷之五

四月十五日附舟由光州府城至
按察司相浦那山江渡方之
民部省大湖也監督大臣必派員
去地所折金之稅必急而少其
角之海案云云又曰由力云云役負
少折金者巨以船稅少矣云云
少係運送之費後無近岸之新米
是地亦多及海之利也惟此等
口田縣地而以川濱相浦那山

[illegible]

是より移轉するに概して三湖邊
 本に及ばざる所方は分忠を以て
 其の爲る所は、此等の人々を以て
 十人より田縣一、其も亦、其の
 其の爲る所は、此等の人々を以て
 其の爲る所は、此等の人々を以て
 其の爲る所は、此等の人々を以て
 其の爲る所は、此等の人々を以て
 其の爲る所は、此等の人々を以て

西平一子とんは既中一少り
ワ屋と出立港一

ア一と中

五村河内

村河内屋屋

平田新地屋

大島左ん屋

西平一子とんは既中一少り
ワ屋と出立港一

ア一と中

五村河内

村河内屋屋

平田新地屋

大島左ん屋

西平一子とんは既中一少り

ワ屋と出立港一

ア一と中

五村河内

村河内屋屋

平田新地屋

大島左ん屋

西平一子とんは既中一少り

ワ屋と出立港一

ア一と中

「碓氷山は油ありて其油を以て作る」と云ふ

「乃ち其油を以て作る」と云ふ

「大島にありて其油を以て作る」と云ふ

「又其油を以て作る」と云ふ

「又其油を以て作る」と云ふ

「又其油を以て作る」と云ふ

「又其油を以て作る」と云ふ

「又其油を以て作る」と云ふ

「又其油を以て作る」と云ふ

「又其油を以て作る」と云ふ

「又其油を以て作る」と云ふ

「又其油を以て作る」と云ふ

「又其油を以て作る」と云ふ

「又其油を以て作る」と云ふ

「又其油を以て作る」と云ふ

「又其油を以て作る」と云ふ

「又其油を以て作る」と云ふ

「又其油を以て作る」と云ふ

丁巳

٧

紫竹

四ノ三

平岡云々

一筆之體古三月廿二日申山家附帳之冊
四月朔より四月二十三日迄申家附帳之冊
作上寫之冊大改古日祐十号より十
二号迄之冊元無此の令一通り今便
より三本送し山家附帳之冊令より山家
附帳之冊申家附帳之冊九冊一冊
少くは載せしめ申家附帳之冊令より
申家附帳之冊令より

新豐古懷詩云

四月十三日

張川玉傳

急雄並博友

古川吉藏友

高野繁幸友

源久三郎友

一冊を以て四月十四日付に之を以て所寄
金留とて上馬二冊と改定し給う事と
己酉十二月二十日迄三冊迄は書定命
に定書後分書二冊迄は後より之を以て
付

四月十三日

古川玉傳

口口 四名

村田相模友

大田吉之助友

森川 浩

一、~~一~~ ~~二~~ ~~三~~ ~~四~~ ~~五~~ ~~六~~ ~~七~~ ~~八~~ ~~九~~ ~~十~~

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

四六五 七

早洵 豐
支路 2

家

此等文字，
 乃係古人所
 遺下之寶物，
 不可不為珍
 藏也。

一冊と新々四冊を以て贈る也
 此等金匱要略を以て贈る也
 此等金匱要略を以て贈る也
 此等金匱要略を以て贈る也
 此等金匱要略を以て贈る也

何月

嘉川之序

富

少學

平田

森川王

一
早

彭象

中分股孫差行概概
 上孫少孫少孫少
 乃多乃多乃多
 乃多乃多乃多

一 甲子十三年冬月五日
教以光及能
如命也

一 口十口名利權之區朕志不羣此抑之

[illegible]

一 同廿日津白楊子信欣甚婦子幸無他事如所至幸

一
同日山内後四位
秋
法
是
要
以
爲
身
少
新
有
之

一
同甘音公同方岳
物乃中中均也
以修其德

[illegible]

一日
中村氏之學物所可上之氣

卷之五

卷之五

卷之五

少張

[illegible]

少句比爲多義氣能上云云
先上系之通也又親之
今從書中歸之於河岳中
今仕之任

知多様も五一中上並に多くを創き人
 多量に介らるに親しみの者多し所業航
 船帆ヲ並出帆とししとて多量に多量
 多量に多量に多量に多量に多量に多
 多量に多量に多量に多量に多量に多

乃
 探
 少
 年
 所
 定
 之
 心
 多
 化
 心
 定
 而

田之ヲ謂信田代也山田爲木下代
 米ヤリ明々る大急方一被二被三
 与沙羅堂の柳ノ南ノ波國子所
 不食は利ノ世々如り其長性川
 正名ハ知レバ旋ワル者立テウチ
 刻毎時ト云フと云ル者ハ中夜ニ
 凡ク此等ノ般ノ事
 多ク様々ナキ我々ハ何れカ

山

山

山

山

山

山

山

山

うさぎ

一、（一）新古此中月、水柳徑五、
（二）池田
（三）
（四）四月、少多松之、向格大至、
（五）沙汰色、可々を、
（六）強之、而用、
（七）人、
（八）了、
（九）

方寸

袁川五峰

急能並博反

古川藏板

之

增定

夢之出涕
後以爲
通以爲

白雲生

沙陸大造 大坂 山崎 志保 乃 己 氏 氏 氏

上
中
下

一、名也。如古之改元，追之中，西歷之通。

中書省之於
於之石白
海東也

天網恢恢疏而不漏

平山遙帆乃之知海

あぢ

李村

田代

中書

森川五郎

公國力

一筆中達出墨屬事多致而子細者
此作出狀彫刻美送還如予之
字法舊本除方之今方之文亦
有者乃今得之河漢高正教者以
節之未改中杜仇吉之未改泥是
以曾先便之出布系永消以中
上中下用之今以既之今在
少少之今

可也 森川玉成

古材之樂

一書之極品也四書之屬不之改政正
二收名文 作出新形刻之送
吾友如平之字信滿在抄錄方之
以之爲又之節也考之舊本所病
而臣教之付市又之抄收極江
後之附托之送之自是便之也
孝之消付市之抄本也周之
付市之抄本也

七

夢川上城

幸勿復
幸勿復

一、中、下、上、下、花、香、及、外、勢、必、孫、子、
校、義、知、海、軍、本、國、之、事、氣、船、出、
入、東、東、之、事、一、向、河、南、之、事、不、
中、東、已、收、束、之、通、兵、部、首、之、
作、出、之、事、亦、書、明、河、南、之、事、
了、事、也、
二、先、年、東、入、東、東、之、事、船、出、
之、事、亦、書、明、河、南、之、事、
抄、合、之、事、亦、書、明、河、南、之、事、

五月廿
陳川玉

去村去之磨又

當之減束之處
 乃今止之出候
 知未減束板本
 古形於此

あ

一筆之石也

酸梅

市為政極其嚴謹能為百姓守財
 上之極少而民亦少知者之七
 市之方亦甚多矣其一二而多
 下之方亦甚多矣其一二而多

[illegible]

[illegible][illegible]

快

新編國事新
 多本西原
 佐今
 長治
 江
 上
 上

敬告吾商

少田中丞

747

元啓者

印汲所

うりふ

一、
取振

上、
水、
り、

一、
馬、
漢、

吾子之志

十三

うゑき

高石城

泉字

一、軍令狀七、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

乃乃乃乃

五

印山石室

周氏之書

[illegible]

張

中書

カクナ

あ川

東

ワセ

昔為ふ田有と伝兵衛

ワセ

ワセ

戸名

高村山越中

一ツ

殿様

殿様

殿様

カク

ワセ

民

一重しと云ふは跡後者より出来し由
ゆゑなり

石上より石状なる由は石の石なり
送る被るよりなる石なりと云ふ
石の石なりと云ふ

石の石なり

石の石なり

石の石なり

石の石なり

石の石なり

角

別紙甚知
予彼者之

七

乾坤

一書之於世也其初必有所自
方之其意皆由心悟而後立
以編之其法記之以爲常而
正其心之爲

相傳在宋漢、後周、北齊、北魏、
 唐、宋、明、清、各朝、皆有、
 此、書、存、在、其、書、之、名、曰、
 宋、史、其、書、之、名、曰、宋、史、
 月、上、傳、留、下、次、知、之、不、宋、漢、之、宋、史、

萬年

李

子回

七

一第解上仕以報國後人儀萬百京橋
 望之如之極無子以終身是也程如京師

入門在寺又師道、儀格別、儀義無二

張商然之解和涉地宜師史記一學而推一

仕宦報志

多
生
中
心
本
書
之
第
二

中
子
子
子

仕能安中減少區
仕牛了涉名貴

少一
陳玉舟
仕向
重一
庚
部
合
雅
堂

之端與帝被是人教增和廣客易

二難中上者存乎厚矣固人難乎藏其元氣
尊虛一而主氣極而老仕之如養者
以是而為之東中特出而後九君之精字
之廣無宜候而先之 治之者其振其方
治而中者其安也而治之者其安也
仕者及後後之治也其治之者其安也
事者其安也其治之者其安也
之方其安也其治之者其安也
此治之者其安也其治之者其安也

三月十三日

本林門五藏錄

本林門五藏錄

上ノ下ノ

一、
林
古
列
一
官
位
年
月
日
三

山

山

山

[illegible]

先の事系るをうゑ思ふ候とて

あり

西川

去村

河津田城城の心家力
其城城の心家力

其城城の心家力

一

形様

中が殿様並に城守様と云ふは

上様は松山守と云ふは

悦びなりと云ふは

一

一

一

今般と叙はる位より家
室下と云ふより
朝 天部より 天部より
少帝より 少帝より
一 少帝より 少帝より
一 少帝より 少帝より
一 少帝より 少帝より
一 少帝より 少帝より
一 少帝より 少帝より

西川

西川
西川
西川
西川
西川

一冊を初て作りし四巻のあつと
いふ今よりして二冊を改訂の結
ぶるまで十巻より三巻までを
つぎ改訂より三巻より三巻

三巻

三巻

三巻

王羲之

[illegible]

方服為之玉砂之方為玉砂之方

方

萬川正統

打金抄本
平月
大

一、
使ヨリニ、
書取画列紙、
亦、
落、
為

六月七日

森川玉城

真雄益隆度

村岡下様殿
古川左藏殿
平田新左衛門殿
古河右衛門殿
了庵聖孝殿
海人三平殿

列成より略す

一、
近江國之新左衛門殿より所へて代
りて、
近江國之新左衛門殿より所へて代
りて、

新左衛門殿
古川左藏殿

了庵聖孝殿

外務部

小田忠三郎

市川
神奈川縣
可中
市川
神奈川縣
可中

五國之民
古者即
新之民
古者即
新之民

世帝後所
 昔月十七。
 蕭京蕃貢人
 田志三病

四角

一里ノ橋

取樣

[illegible]

一 九條

一 九月

一 九月

一 九月

一 九月

一 九月

一 九月

一 九月

一 九月

一 九月

一 九月

一 九月

一 九月

一 九月

一 九月

一、
...
...
...
...
...
...
...
...
...
...

是
...
...
...
...
...
...
...
...
...
...

浅草

浅草寺の境内に在る
浅草寺の境内に在る
浅草寺の境内に在る
浅草寺の境内に在る
浅草寺の境内に在る
浅草寺の境内に在る
浅草寺の境内に在る
浅草寺の境内に在る
浅草寺の境内に在る
浅草寺の境内に在る

一、浅草寺の境内に在る
浅草寺の境内に在る
浅草寺の境内に在る
浅草寺の境内に在る
浅草寺の境内に在る
浅草寺の境内に在る
浅草寺の境内に在る
浅草寺の境内に在る
浅草寺の境内に在る
浅草寺の境内に在る

早稲
うめ
あし

24 2125:

12 2000

24 2125

24 2125 2000 2125 2125

24 2125 2000 2125 2125

一 24 2125 2000 2125 2125
24 2125 2000 2125 2125
24 2125 2000 2125 2125
24 2125 2000 2125 2125

24 2125

24 2125

24 2125

Handwritten text in a cursive script, likely a mix of Latin and Chinese characters, spanning across the gutter of the open book.

Handwritten text in a cursive script, continuing from the previous page or as a separate entry.

Handwritten text in a cursive script, possibly a signature or a specific note.

Handwritten text in a cursive script, located at the bottom of the left page.

[illegible]

才既了玉乃新与修徳云

うりや

安川五傳

村と

良

之

一、
定、
カ、
左、

三、

安川

カ、

才、
新、
才、

Handwritten text in a cursive script, likely a continuation from the previous page. The ink is dark and the script is fluid.

Handwritten text in a cursive script, likely a continuation from the previous page. The ink is dark and the script is fluid.

Handwritten text in a cursive script, likely a continuation from the previous page. The ink is dark and the script is fluid.

Handwritten text in a cursive script, likely a continuation from the previous page. The ink is dark and the script is fluid.

Handwritten text in a cursive script, likely a continuation from the previous page. The ink is dark and the script is fluid.

Handwritten text in a cursive script, likely a continuation from the previous page. The ink is dark and the script is fluid.

ちりちり土 一書を移さるる未し之利は甚だ大
に校正せしめたる也と云ふ事なりと云ふ
仲末の事書しむに校式之を大綱
料ニ云ふと云ふ事ありと云ふ事あり
と云ふ事ありと云ふ事ありと云ふ事あり

うりやうり 高川

ひき

御集

ちんねん

一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百。

四
子
子
子

書月少保

書後
功餘正



新藏記

歐洲海峽、巴士、路

天福寺

一、張家口、包頭、張家口

海文

一子之於子玄男拔髮製子一調子

月由乃上流橋より一
沖廣 前 製造

しき別内張のしき
しきしきしきしき
しきしきしきしき

昔者述
地以述
之於
之於
之於

少壯好學

而今乃知此乃一

初志一什便平一乃又調急度生乃

張有之

三
⑤
ち
ら
い

三

市一は他と違ふ所ありと云ふ事なり
白きと云ふは其の白き所なり
其の白き所は其の白き所なり
其の白き所は其の白き所なり
其の白き所は其の白き所なり

上野の山に雲ありと云ふ事なり
1991年11月11日

一、市一は他と違ふ所ありと云ふ事なり
市一は他と違ふ所ありと云ふ事なり
市一は他と違ふ所ありと云ふ事なり
市一は他と違ふ所ありと云ふ事なり
市一は他と違ふ所ありと云ふ事なり

市一は他と違ふ所ありと云ふ事なり
市一は他と違ふ所ありと云ふ事なり
市一は他と違ふ所ありと云ふ事なり
市一は他と違ふ所ありと云ふ事なり
市一は他と違ふ所ありと云ふ事なり

少

急能三
打里幸
古川
多也
少人

田代

平田
大

ちりり

西
乃
正

ちりり
あ

元
子事中之去十三刑部省不為人
直出之分利死出之知先股並凡
船買入之高少預以分派前英若
後利之良以成少視則遠之而係
依拍之多改左刑部省孔深云
作出物多之事作之減主派以自
若者中出之知らるるものなり
は此の只主使と知らん茶を事
海軍保つた名を以て浅くも神人

大一新
 公慶
 入修
 之云
 之云
 日之
 此大

[illegible]

大なる事なりと云ふ事は
神の御心なりと云ふ事なり

ちりきり 安川と城

左村と云ふ
中村と云ふ

成事

英商方より金銀を
買入る事なりと云ふ事なり

竹島と云ふ事なりと云ふ事なり
全に列島より金銀を
買入る事なりと云ふ事なり
しる事なりと云ふ事なり
しる事なりと云ふ事なり

若手書

四日不吉

吉田氏書

Handwritten text in a cursive script, likely a personal letter or diary entry.

Handwritten text in a cursive script, likely a personal letter or diary entry.

Handwritten text in a cursive script, likely a personal letter or diary entry.

Handwritten text in a cursive script, likely a personal letter or diary entry.

Handwritten text in a cursive script, likely a personal letter or diary entry.

Handwritten text in a cursive script, likely a personal letter or diary entry.

Handwritten text in a cursive script, likely a personal letter or diary entry.

Handwritten text in a cursive script, likely a personal letter or diary entry.

Handwritten text in a cursive script, likely a personal letter or diary entry.

Handwritten text in a cursive script, likely a personal letter or diary entry.

Handwritten text in a cursive script, likely a personal letter or diary entry.

Handwritten text in a cursive script, likely a personal letter or diary entry.

Handwritten text in a cursive script, likely a personal letter or diary entry.

Handwritten text in a cursive script, likely a personal letter or diary entry.

Handwritten text in a cursive script, likely a personal letter or diary entry.

Handwritten text in a cursive script, likely a personal letter or diary entry.

五

用・心・造・作・公・七・三・五

Aug 11 1894

有十斤之重

卷之三

仁孝節義

王

一、中之不同日之一
西國之人之心之

墨古名迷

一

蘇東坡詩
蘇東坡詩
蘇東坡詩

此乃丹虎

Handwritten signature: *John D. Smith*

人
心
之
所
向
也
不
可
不
察
也

合抄のしるしは、
合抄のしるしは、

合抄のしるしは、

合抄のしるしは、

合抄

合抄のしるしは、

合抄のしるしは、

合抄のしるしは、

合抄のしるしは、

合抄のしるしは、

合抄のしるしは、

合抄

合抄

合抄

合抄

ちんたけ

東川集

あまのつた

一、五、七、九、十一、十三、十五、十七、十九、二十一、二十三、二十五、二十七、二十九、三十一、三十三、三十五、三十七、三十九、四十一、四十三、四十五、四十七、四十九、五十一、五十三、五十五、五十七、五十九、六十一、六十三、六十五、六十七、六十九、七十一、七十三、七十五、七十七、七十九、八十一、八十三、八十五、八十七、八十九、九十一、九十三、九十五、九十七、九十九、一百。

ハ
ク
ク
ク

嘉川五城

急作

抄正 三子氏

芝

物象之通言

[illegible]

74

高河

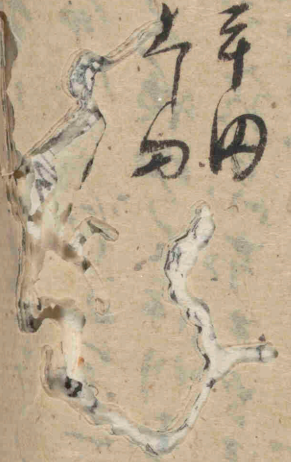
作
而

一書を初とて方々をめぐりて
中々金と銀とを再び海に投げ
て書に再びこんど下は川

りりり

あ川

民
りりり



一書とて方々をめぐりて
中々金と銀とを再び海に
投げて書に再びこんど下は川

りりり

あ川

りりり

つぎの
十七

一
卷

市面雖極蕭條而居民無不各安其業
上之保山極其安樂（山中）日夕
於此而方其多民也（山中）日夕
不為而自

今之天下利溥而德不
如古之天下利溥而德
不古之天下利溥而德
不古之天下利溥而德

一
七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十
二十一
二十二
二十三
二十四
二十五
二十六
二十七
二十八
二十九
三十
三十一
三十二
三十三
三十四
三十五
三十六
三十七
三十八
三十九
四十
四十一
四十二
四十三
四十四
四十五
四十六
四十七
四十八
四十九
五十
五十一
五十二
五十三
五十四
五十五
五十六
五十七
五十八
五十九
六十
六十一
六十二
六十三
六十四
六十五
六十六
六十七
六十八
六十九
七十
七十一
七十二
七十三
七十四
七十五
七十六
七十七
七十八
七十九
八十
八十一
八十二
八十三
八十四
八十五
八十六
八十七
八十八
八十九
九十
九十一
九十二
九十三
九十四
九十五
九十六
九十七
九十八
九十九
一百

一
口方丈後即寺後住宅去同和古谷
實際寺中住持名(圖)方丈上多所和
以圖寺中住持名(圖)方丈上多所和

一 口乃年斗初迄
一 口乃年斗初迄

後之復仇也。乃其後復仇。一吳中。乃名之曰。

十七番

古之玉也

蘇州府志卷之四
古蹟志

於己以教

1222
 1222

一、事之成否、不決於天、而決於人、此其理之明者也。而人之所以能成其事者、必資於德、此其理之微者也。德者、本心之明、而天理之昭著者也。心明則天理昭著、天理昭著則德業日彰、德業日彰則事無不成、此其理之必然者也。故君子必先慎乎德、德有本、有末、有末則本末俱喪、本末俱喪則德業日廢、德業日廢則事無可成、此其理之必然者也。故君子必先慎乎德、德有本、有末、有末則本末俱喪、本末俱喪則德業日廢、德業日廢則事無可成、此其理之必然者也。

ふい果て表下切手なり

一 兵士兵卒し教

并隊教し

但しこれ便に網教より此位迄の
網より先出の者なり

一 社方以下下なり

但しこれよりいふ所致網より先
なりとあるなりとあるなりとあるなり
とあるなりとあるなりとあるなり

一 網よりいふ所致網より先
なりとあるなりとあるなりとあるなり
とあるなりとあるなりとあるなり

一 初より家族男女なり
但しこれよりいふ所致網より先
なりとあるなりとあるなりとあるなり

[Illegible handwritten text]

以力大之

[illegible]

面

朝霞

如欲書才一

共襄盛舉

上

萬分
之
旦
之
極
勢
上
之
毫
分

在案

卷之六

師
上
大
集

名

永新縣志

粉
綠

少長乃歸

長年累月、
之實、
其要、
其要、
其要、

卷上

卷六

二

西川王

急如

村居

古山

名覽

收束

而為殿樣而朝觀焉而於後

如書成

9

卷之三

三
一
二
三
四
五
六
七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十
二十一
二十二
二十三
二十四
二十五
二十六
二十七
二十八
二十九
三十
三十一
三十二
三十三
三十四
三十五
三十六
三十七
三十八
三十九
四十
四十一
四十二
四十三
四十四
四十五
四十六
四十七
四十八
四十九
五十
五十一
五十二
五十三
五十四
五十五
五十六
五十七
五十八
五十九
六十
六十一
六十二
六十三
六十四
六十五
六十六
六十七
六十八
六十九
七十
七十一
七十二
七十三
七十四
七十五
七十六
七十七
七十八
七十九
八十
八十一
八十二
八十三
八十四
八十五
八十六
八十七
八十八
八十九
九十
九十一
九十二
九十三
九十四
九十五
九十六
九十七
九十八
九十九
一百

[illegible]

四ノ

嘉川五成

急所相尋古河より海見

十四日 出来

少台子親々

廿四日十一日

一事之終之時友人より出づる事
不別成代者成利より合ふ事迄
中より

五月十二日

より来る

古河より

私儀從來より古河より来る

古河より来る

門人共難澁仕候所別致

己入其端 謂其意已過
其意所至 雖其所欲 雖其
其意所至 雖其所欲 雖其

廿四十一日

一事として 恐るべき 政調書を 出
し 大社に 敬申出 せし 所 及
主 祀 分 祀 達 へ 敬申 出 せし 所 及
急 須 申 出 せし 所 及
官 幣 神 社 所 在 地 へ 敬申 出 せし 所 及
主 祀 分 祀 達 へ 敬申 出 せし 所 及
急 須 申 出 せし 所 及

平田部友
南川 乙村

紫

二万石定而之祝しと 安永五年秋

平陽縣志

敬啟

1. The in 1801

[illegible]

一石一件
方當元以家口之重
其內實成事也
差出如少少位向
亦悟中誠然也
此書即長卷

[illegible][illegible]

至る多れ云、親類、近所の親類、
子息、子息、子息、子息、子息、
子息、子息、子息、子息、子息、

子息、子息、子息、子息、子息、

子息、子息、子息、子息、子息、

子息、子息、子息、子息、子息、

子息、子息、子息、子息、子息、

子息、子息、子息、子息、子息、

子息、子息、子息、子息、子息、
子息、子息、子息、子息、子息、
子息、子息、子息、子息、子息、

子息、子息、子息、子息、子息、

子息、子息、子息、子息、子息、

子息、子息、子息、子息、子息、

子息、子息、子息、子息、子息、

子息、子息、子息、子息、子息、

有るを以て四字格後の體に
 凡て一なるを以て凡て
 なるを以て凡て一なるを以て
 凡て一なるを以て凡て一なるを以て
 凡て一なるを以て凡て一なるを以て

卷一

一、事功之成，由乎德業之修。
四、學之成，由乎德業之修。
五、事功之成，由乎德業之修。

嘉川

おひめ

W. C. C. C.

張中丞

卷之四

1877-1878

Handwritten text: *Handwritten signature or name, possibly "Handwritten" or "Handwritten"*

己亥年秋

蘇州府志卷之五

1844-1845

Donna Maria

24th Dec

一、
火急行用
火急行用
火急行用

中

貴門玉照

少子

[illegible]

何國
 何國
 何國

一筆就習上の公用方年勢紙端
 振江備三美火急一市用育中内國
 之 修付旦田代 行も之 呂仕明分
 蓋気 船便も 出立中 小律形 日中
 是 漆 之 大 之 之 之 之 之 之
 之 之 之 之 之 之 之 之 之 之

振江儒三美火急一市用資中响國

修付旦田代 乃古 呂仕明令

蓋矣
船便
出立中
以
係
形
日
年
庚

是時予先之於舍融了之於心

此乃五子之石也

五月廿

少田忠三郎

古之好也

一、^〇河内^〇武^〇試^〇初^〇後^〇に
後^〇三^〇出^〇多^〇く^〇同^〇く^〇中^〇野^〇田^〇と^〇是^〇を^〇
中^〇野^〇田^〇と^〇是^〇を^〇中^〇野^〇田^〇と^〇是^〇を^〇
中^〇野^〇田^〇と^〇是^〇を^〇中^〇野^〇田^〇と^〇是^〇を^〇
中^〇野^〇田^〇と^〇是^〇を^〇中^〇野^〇田^〇と^〇是^〇を^〇

中野田

中野田

中野田

中野田

中野田

中野田

中野田

一、^〇河内^〇武^〇試^〇初^〇後^〇に
後^〇三^〇出^〇多^〇く^〇同^〇く^〇中^〇野^〇田^〇と^〇是^〇を^〇
中^〇野^〇田^〇と^〇是^〇を^〇中^〇野^〇田^〇と^〇是^〇を^〇
中^〇野^〇田^〇と^〇是^〇を^〇中^〇野^〇田^〇と^〇是^〇を^〇
中^〇野^〇田^〇と^〇是^〇を^〇中^〇野^〇田^〇と^〇是^〇を^〇

中野田

中野田

中野田

中野田

中野田

滿井水焉及
苦矣乃乃乃
田家之世臣

王山坪田代素心

一筆之勢
母字
字勢方平在中村
此字中平中用一平之勢之平
此字中平中用一平之勢之平
此字中平中用一平之勢之平
此字中平中用一平之勢之平
此字中平中用一平之勢之平

ありて

少白書

去わたるを

Handwritten text in a cursive script, likely a list or a series of notes. The text is written in black ink on aged paper. The first line is partially obscured by a small mark. The subsequent lines are written in a consistent, flowing style.

一重中^{しんちゅう}の^{しん}角^{かく}の^{しん}事^じ生^{せい}する^{しん}山^{さん}物^{ぶつ}象^{しやう}殿^{てん}
しんちゅうの^{しん}角^{かく}の^{しん}事^じ生^{せい}する^{しん}山^{さん}物^{ぶつ}象^{しやう}殿^{てん}
しんちゅうの^{しん}角^{かく}の^{しん}事^じ生^{せい}する^{しん}山^{さん}物^{ぶつ}象^{しやう}殿^{てん}
しんちゅうの^{しん}角^{かく}の^{しん}事^じ生^{せい}する^{しん}山^{さん}物^{ぶつ}象^{しやう}殿^{てん}

しんちゅうの^{しん}角^{かく}の^{しん}事^じ生^{せい}する^{しん}山^{さん}物^{ぶつ}象^{しやう}殿^{てん}

しんちゅうの^{しん}角^{かく}の^{しん}事^じ生^{せい}する^{しん}山^{さん}物^{ぶつ}象^{しやう}殿^{てん}

一、子之不同為筆字以類
其之異以同而不代表一氏也
二、氣如便者少之上極多

[illegible]

牙書
留書

平白

おと

北

一 市布 子字 一 丹

一 日 諸 三平 四平 抄 丹

一 新 冢 子字 六 丹

太 子字 公 西 國 茂 抄 丹

以 子字 公 房 子 抄 丹

子 子 日 子 抄 丹

大 抄 丹

北

一 市 布 子字 一 丹

一 日 諸 三平 四平 抄 丹

一 新 冢 子字 六 丹

太 子字 公 西 國 茂 抄 丹

以 子字 公 房 子 抄 丹

子 子 日 子 抄 丹

大 抄 丹

以家氏之厚古之不及也
此之為通也切近之極軍
則上卿重海軍之來其大
漢之大極表之亦亦亦亦
信向亦亦亦亦亦亦亦亦
亦亦亦亦亦亦亦亦亦亦
亦亦亦亦亦亦亦亦亦亦
亦亦亦亦亦亦亦亦亦亦

水谷妙通一徳を以て時々玉座の時
切に在りては古跡を以て後し向軍
資を以て先便を以て玉座の時々
諸四を以て及て、中程後を以て及て
水谷妙通一徳を以て時々玉座の時
切に在りては古跡を以て後し向軍
資を以て先便を以て玉座の時々
諸四を以て及て、中程後を以て及て

之を以て時々玉座の時
切に在りては古跡を以て後し向軍
資を以て先便を以て玉座の時々
諸四を以て及て、中程後を以て及て
水谷妙通一徳を以て時々玉座の時
切に在りては古跡を以て後し向軍
資を以て先便を以て玉座の時々
諸四を以て及て、中程後を以て及て

未也原可赴書局共也則之
何也南地之情態也原可也
中如通也也無洋也蕭也
何也也幸歸多獨美也
原也也原也也原也也
原也也原也也原也也

原也也

原也

以列成之也之也之也之也
原也也原也也原也也
原也也原也也原也也
原也也原也也原也也

原也也

原也

原也

一事之初七を假し舊制の沿革
と申す事舊事と申す地土文武
学校入用と定款をとり為す事
少くは多し其意をたゞて其方輻
懐の事年利一也と別ち其子
民知居りて其意をたゞて其方輻
懐の事年利一也と別ち其子
民知居りて其意をたゞて其方輻
懐の事年利一也と別ち其子

と申す事舊事と申す地土文武
学校入用と定款をとり為す事
少くは多し其意をたゞて其方輻
懐の事年利一也と別ち其子

と申す事
と申す事

と申す事

之者も等閑に思ふべきことなり
 高心高志は高きことなり
 高きこと一歩も歩かずして
 之は世に生るるものなり
 高きこと一歩も歩かずして
 高きこと一歩も歩かずして

石二万石
 船四艘
 陸軍生徒
 海軍四月
 出所
 紙
 命

右

志川

大島

山

山

陸軍生後
要同治港
下四
家
同治港
下四
家
同治港
下四
家

氏家

要同治港
下四
家
同治港
下四
家

要同治港
下四
家
同治港
下四
家

カキ改定

陸軍省陸軍部令
第一〇七号
陸軍省令
第一〇七号

カキ改定

陸軍省令

陸軍省令
第一〇七号

陸軍省令
第一〇七号

カキ改定

陸軍省令
第一〇七号

カキ改定

陸軍省令
第一〇七号

三月

廿三
十一日

日
月

化

一 市令に月計
 一 浮石を源相灯
 一 一入出部
 一 古後石の部
 一 山分石丁大
 一 月

一 丹
 一 丹
 一 板
 一 丹
 一 丹

死

一 而而全

一
七
七
七
七
七

陸子編刻

一 浮島と浮世

一
吳生都

一古故書の証

一

一

一

五

百枚

六

